

令和2年度
菊池市総合計画外部評価委員会
答申書

令和2年10月
菊池市総合計画外部評価委員会

1. 総評

第2次菊池市総合計画後期基本計画（令和元年度施策）の28施策について外部評価を実施した結果、後期基本計画の2年目については、将来像の実現に向けた各施策の取組みが、概ね順調に進捗していると評価できる。

特に、施策13「子育て支援の充実」において、保育園の待機児童ゼロを長年継続していることは、菊池市が誇れる子育て施策の一つである。

一方で、新型コロナウイルス感染症対策のため、一部の事業では進捗の遅れや成果が伴わなかったものが見受けられた。事業を始める際は、目的や効果を明確にするとともに、事業スキームを整理し、成果が見える仕組みにしなければならない。さらに、このコロナ禍でも事業を継続できるよう、感染防止対策に努めながら、事業の実施に向けて取組みを工夫することが求められる。

引き続き、今回の評価を通して抽出された課題や意見をこれからの取組みの改善に繋げ、よりよい菊池市の発展に寄与されることを期待する。

- 6次産業化で開発された商品は、まずは市民に商品の良さを実感してもらうことが大事であるため、試食やアンケートを行うことで、多くの市民が対外的にPRできることが望ましい。
- 近年、有害鳥獣の増加に伴い、農作物への被害防止対策はもちろん、登下校の子どもたちへの被害も心配するので対策を講じていただきたい。
- 農業の振興については、耕作放棄地の削減に向け、退職後に就農できる環境を整え、農業に携わる機会を提供する等の取組みが必要である。
- 商店街の立ち寄り率向上のための事業については、事業スキームを整理し、商店街を利用した人数等、成果が見える仕組みを構築する必要がある。
- 学校教育の充実については、引き続き学力の向上に努めるとともに、コロナ禍の子どもの学習支援だけでなく、保護者の不安解消についても対応していただきたい。
- 生涯学習の推進については、キクロスまつりをはじめ各種講座で文化に触れ、人とつながることで市民の幸せや生活の質を高めることができたため、引き続き推進に取り組んでいただきたい。
- 市民協働とコミュニティ活動の推進については、地域の中で多種多様な市民活

動が生まれることが望ましいため、人と人を繋ぐための仕組みづくりや、市民活動の輪が広がるよう支援していただきたい。

- 男女共同参画社会の実現については、自身がどうあるべきか気づくことが大切であるため、市はさらなる男女共同参画の啓発を行い、男女がお互いの良いところを認め合い、受け入れられる社会づくりを推進していただきたい。
- 保育園の待機児童ゼロは、菊池が誇る一つの成果であるため、広くPRするとともに、引き続き子育て支援の充実に取り組んでいただきたい。
- 地域福祉の取り組みと、市民活動の推進については、市民生活に深く関連性があるため、福祉とまちづくりが一体となって取り組み、関係部署が連携して推進することが望ましい。
- 近年災害が相次ぎ、市民の防災意識が高まっているため、この機会に市の情報伝達手段である安心安全メールや防災アプリのさらなる登録者の増加を図り、より一層防災対策に取り組んでいただきたい。

2. 外部評価委員会委員名簿

※外部評価委員会は、下記の7名（学識経験者1名、各種団体等6名）で構成

役職	氏名	備考
会長	上野 眞也	熊本大学 教授
委員	工藤 真理子	菊池市農業委員
委員	松野 浩一	菊池市商工会 事務局長 菊池観光協会 監事
委員	古津 理恵	菊池市子ども会育成協議会
委員	青木 輝彦	菊池市社会福祉協議会
委員	江藤 継喜	菊池市教育委員
委員	飯塚 暁子	熊本県北広域本部 振興課長